

富士吉田周辺地域の観光名所・史跡等紹介

富士山

言わずと知れた日本の最高峰(3,776m)。その美しい姿かたちゆえ、古の時代より、万葉集や竹取物語などの文学や浮世絵、富士曼荼羅といった絵画など、芸術の分野でも繰り返し取り上げられています。富士吉田校舎では、この霊峰を日々、麓から仰ぎ見ることができます。

近年は登山ブームということもあって富士山への登山者数が増加しており、平成20・21年とも24万人以上となりました。女性の登山者も多く、それに伴い山小屋などの施設も近年の充実には目覚ましいものがあります。皆さんも山頂からの雄大な景色を、是非ともご堪能ください。

大石公園・八木崎公園

河口湖畔にある広大な公園。6月下旬から7月上旬にかけて開催される河口湖ハーフフェスティバルの期間には、咲き誇るラベンダーの背景に雄大な富士が広がります。

山中湖文学の森

山中湖畔の公園内に、山中湖にゆかりのある文人・俳人(松尾芭蕉、高浜虚子、与謝野晶子など)の句碑が15基あります。また、徳富蘇峰館や三島由紀夫館も併設されています。

河口湖自動車博物館

世界初の自動車ベンツ1号車から最新式のスポーツカーまで、希少価値の高い車種約80台が展示されています。(T型フォード、フェラーリF50なども)展示内容は年度毎に異なり、訪れるたびに新たな発見が見えます。

《花見の名所》

新倉浅間神社

毎年4月中旬から下旬にかけて開花。富士山を背景に咲き乱れる桜は絶景。

富士御室浅間神社

毎年4月中旬に開花。表参道の両側をあでやかに彩るソメイヨシノの並木が見事です。

吉田のうどん

祝儀、不祝儀などの時に必ずうどんを食べて終わりにするほど“うどん”好きの土地柄。市内及びその周辺には“吉田のうどん”の流れをくむ店が50軒以上も点在します。

文：編集委員 高田中成

編集後記

都心では既に桜の季節を過ぎ、新緑の季節となっておりますが、富士吉田校舎でもいよいよ桜の開花時期となってまいりました。「白樺・百合」は初回発刊から3年目を迎え、第9号となりました。今回は、富士吉田での一年間の流れに係るものをメイン記事とさせていただきます。新入生は、寮生活への期待と不安の入り交じった気持ちでいることと思いますが、富士山の麓であるこの富士吉田の地でチーム医療の基礎を学ぶとともに、大いに青春を謳歌していただきたいと思っております。

次回は節目となる第10号の発刊を7月に予定しております。よろしくお願いたします。

文責：編集委員 高田中成

以上、富士吉田キャンパス周辺にはたくさんのお見所がありますが、今回は市内を代表する名所である富士浅間神社を詳しくご紹介します。

北口本宮富士浅間神社



富士吉田を象徴する県内随一の史跡、北口本宮富士浅間神社。昭和大学入口交差点から国道139号線を山中湖方面に向かうと、鬱蒼たる巨木の繁る杜が視界にひろがります。諏訪の森に鎮座する浅間神社の神域です。

富士山は本来、山全体を御神体とする信仰の対象であり、「富士講」とよばれる講を組んで、江戸をはじめとする日本各地から多くの信者が訪れました。その伝統は今日もお受け継がれており、富士詣でが世俗化した富士登山はその名残でもあります。

延暦7年(788年)創建のこの神社、主祭神は木花開耶姫命(このはなさくやひめのみこと)、美しい名をもつ女神です。

杉の大樹と歴史の刻まれた石灯籠の並ぶ参道の奥では、立派な鳥居と荘厳な社殿とが参拝者を圧倒します。桃山時代の様式を今日に伝える本殿ならびに東宮本殿と西宮本殿はいずれも国指定重要文化財。

毎年八月下旬には、浅間神社の秋祭りであり、日本三奇祭のひとつとしても知られる「吉田の火祭り」(県指定無形民俗文化財)が町をあげて盛大におこなわれます。富士を模った独特の神輿はこの祭ならではの、26日の「鎮火祭」は、およそ70本にもものぼる巨大な松明が夏の夜空を焦がし、吉田の町が紅蓮に染まる勇壮夢幻の大祭です。

文・写真：富士吉田教育部 田中周一



吉田の火祭り



白樺百合

昭和大学だより
第9号 2010.4.12発行

発行責任者 富士吉田教育部長 片桐 敬
編集責任者 富士吉田教育部教授 倉田 知光
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403



学生部長 田中一正 撮影

2010年の新入生を富士吉田キャンパスにお迎えします。

昭和大学 富士吉田教育部長 片桐 敬

春まだ寒い富士吉田市ですが、ここ、昭和大学富士吉田キャンパスに新入生の皆さんをお迎えし、教職員一同、よい一年間をお過ごしいただけるよう、最大の歓迎をいたします。いよいよ、誇り高き昭和大学学生として、近い将来の医療人を目指しての大学生活が始まります。本学は、四十五年前から初年次全寮制をとっており、四学部の学生が、1部屋4名で、四学部が混合して生活し、しかも、寮生活は単なる住居空間ではなく、道一本を隔てて同じキャンパス内に大学校舎があり、社会学習の場でもあります。この全寮制を教育方針として掲げる大学は日本においてはわずかですが、米国のHarvard大学、英国のCambridge大学、Oxford大学など、欧米の一流大学ではごく当たり前のものであり、本学もこの制度を取り入れて、精神的にも肉体的にもよい学生生活を始めていただきたいと思います。

本学のモットーは、学祖・上条秀介先生が唱えた「至誠一貫」であります。四学部の学生は、医療人として社会に尽くす生涯を背負っており、将来のチーム医療を担う運命にあります。寮生活においては、それぞれ立場は異なっても、同じチーム医療の一員となる心構えを獲得することが目的とされます。昭和人として、よい医療人として誇りをもって社会に貢献することを心がけて下さい。

受験戦争が終わり、いよいよ自分自身の生涯に向けての学習が始まりました。白樺や赤松の林に囲まれた素晴らしい環境のもと、クラブ活動に、勉強にがんばってください。初年次前期に気がゆるんで学習がおろそかになると、来年の進級時に苦しむこととなります。富士吉田にもいろいろと楽しい学習内容が計画されており、高校時代とは全く異なった勉強となります。一年後には、無二の親友ができて、富士吉田キャンパスを懐かしむ年とともに去っていく方々がほとんどです。霊峰富士の下、楽しい一年間を過ごされることを確信いたします。

富士吉田での明日への一步

中央委員長 歯学部 石川 美 夢 (フェリス女学院高等学校)

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。大学生としての新たな一步を踏み出した今、どのような思いでしょうか。私が寮生活を終えた今となっては心から思うことは、“一年間”という限られた時間だからこそ富士吉田での寮生活は私達にとって思いもよらない程の貴重なものであったということです。

入学式後、寮や新歓などでの多くの出会いを経て、部屋コンの結束が強まるオリエンテーリング、学生全体の一体感が芽生える体育祭・寮祭など充実した日々を送れます。後期は、医療人を目指す上で自らの自覚や責任と真剣に向き合う早期体験実習から始まり、12月のクリスマスパーティーまで忘れられない最高の思い出を皆で一から作り上げる非常に“濃い”日々となります。そして、完全退寮日には、“寮生活”という名の青春の思い出と共に、また一つ大きく成長することができた新たな自分との出会いを実感し、寮を巣立つことになるでしょう。

私は中央委員長として、合同委員会・中央委員会に加え、地域の方々と共に行う植樹祭でのボランティア活動、オープンキャンパスや父母会のお手伝い、Work Shop への参加など非常に貴重な経験をさせていただきました。私自身、寮生活をまた違った視点から捉えることで多くの刺激を受け、昭和大学で学びを深められることへの感謝の気持ちがより一層強まりました。

昭和大学の初年次の魅力の一つは、全学部全寮制という特色を最大限に生かした実習やPBL、コミュニケーションなど様々な授業を通じて、将来の糧となる多くのものが吸収できることです。自らが積極的に学ぶことでいくらかでも道は切り開ける、そんなことを心から実感できる素晴らしい学習環境でした。

この“一年”の魅力はまだまだあるのですが、あとは皆さん自身が富士吉田での寮生活だからこそできる日々を送る中で一つひとつ見つけていってください。そして、常に自分を支えてくださっている多くの人達に感謝し、将来の医療を様々な方面から担っていく一生の仲間と共に最高の“一年”を過ごされることを願っています。



父兄会お手伝い

オリエンテーリング

保健医療学部 柳澤 裕 介 (前橋東高等学校)

オリエンテーリングは、部屋コンを二つに分けて富士の樹海などをまわっていくものです。コースによって異なるチェックポイントがあり、指定のチェックポイントをきちんと通過しないと、ゴールが認められません。富士の樹海と言っても昼間なので怖がることはない、と思いますよ。途中ちょっとびっくりするものもありますが…。

僕らのチームは皆やる気まんまんと感じた感じで、何より先生が一番やる気があったように思います。あまり張り切りすぎると転ぶので注意してください。僕は転びました。緑豊かな木々に囲まれながらいろいろな話をしてみてください。友情が深まり、友達の輪が広がるいい機会ですよ。デジカメを持ってたくさん思い出を作ると楽しさ倍増。ただし、変な物が写りこんでも保証はしないので悪しからず。



オリエンテーリング

注) 部屋コン 各教員が1グループ16~20名の学生の担任となり、きめ細かい指導をおこなっています。このグループの通称が「部屋コン」です。

新入生へ寮祭委員長としてのあいさつ

寮祭委員長 歯学部 草柳 美 帆 (鎌倉女学院高等学校)

1年生のみなさん、昭和大学へのご入学おめでとうございます。これからみなさんは初めて出会う人と、友人になり、仲間になります。クリスマスパーティー(通称クリバ)と並んで大規模なイベントの寮祭は、模擬店の味、夜の豪華な花火、地元の人との交流、受験生との交流などなど、とっておきのイベントがいっぱいで、大勢で作りに上げた寮祭の後の「絆」や「達成感」には、計り知れないものがあります。私が務めた委員長の仕事は、大変でしたが顔を広くする良いチャンスでしたし、自分を知り、仲間を知ることができました。ですから寮祭に参加して、ぜひメリハリのある寮生活のいいスタートダッシュを切ってください。一瞬一瞬を楽しみ、日々先生や友達への感謝の気持ちを忘れずに、自分がどこまでできるかの限界にチャレンジしてみてください。二段ベッドの隅で目覚めた瞬間から、医療人としての第一歩が始まっています。



寮祭

クリスマスパーティー

クリスマスパーティー実行委員長 医学部 鷺坂 彰 吾 (西南学院高等学校)

吉田での二大イベントと言われる寮祭とクリスマスパーティー(通称クリバ)。今年も無事に、そして盛大に終わることができました。クリバの2か月ほど前になると実行委員の募集が始まり、当日に向けての本格的な準備がスタートします。しかし、今年(2009年度)は何とんでも新型インフルエンザとの闘いが大変でした。地域交流の一環として例年行われていた“ふじざくら支援学校”との交流はこの影響で中止となってしまい、またピーク時には実行委員幹部の半数近くが感染のため休養せざるを得ない状況の中、多くの人たちは「こんな状況でも何とかクリバを成功させたい」というみんなの強い思いが結束力をより強くさせ、結果として素晴らしいクリバができあがったのではないかと思います。

MAS、管弦、グリー、演劇などの部活動やバンド・ダンスをはじめとする有志の人たちは、本番に向けてひたすら練習の毎日。そんな中、クリバ実行委員会では、イベントの企画・運営・スケジュール調整・装飾などに一から取り組んでいきました。各部門に分かれて企画書を書くことから始まり、実行委員同士はもちろん、業者や教務課、ボイラーさん、食堂の栄養士さん、出演団体などの関係者と様々な連絡や調整を行いました。

また実行委員長としては、「一人でも多くの人が最高の笑顔になれるクリバにするためにはどうすればいいのか」そんなことをひたすら考え続ける毎日でした。もちろん考えるだけではだめで、必要な時にはすぐに行動に移すことを常に心がけていました。そのため例年通りのやり方だけにとらわれず、今年は花火の打ち上げをより盛大にするため任意でカンパを募ったり、広報ブログを開設したりと、実行委員の人たちが出してくれたアイデアをもとに新しい試みを多く取り入れました。本番一週間前になると、授業の合間の休憩時にはクリバ関係の電話が鳴りやまない状況が続いたり、夜は点呼後に遅くまで電話で打ち合わせが続くなど、本当に大変な毎日でした。それでも、実行委員のみんなや周りのサポートがあったからこそ最後まで全力で取り組むことができました。全てをやり遂げみんなから「ありがとう」と言われた時の達成感は、とても言葉では言い表せません。

最後になりますが、実行委員のみんなはもちろん、クリバに携わり、また協力して下さった関係者の皆様、本当にありがとうございました。



クリスマスパーティー

※本文中にもあった実行委員によるブログはこちらです。興味がある方は是非ご覧ください。
◆2009年度昭和大学クリバ実行委員会スタッフブログ <http://blog.sw-christmas2009.org/>

